

# NJ素流協 News

平成31年 3月10日  
第170号

平成31年 3月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

「意欲と能力のある林業経営体」募集はじまる  
〜岩手県で3月15日から審査、4月公表へ

平成30年5月の国会で可決成立した「森林経営管理法」が、来る4月1日施行される。この新法による新たな森林管理システムの運用開始を前にして、岩手県において「意欲と能力のある林業経営体」の募集が行われた。青森県、秋田県、宮城県、山形県では、本年4

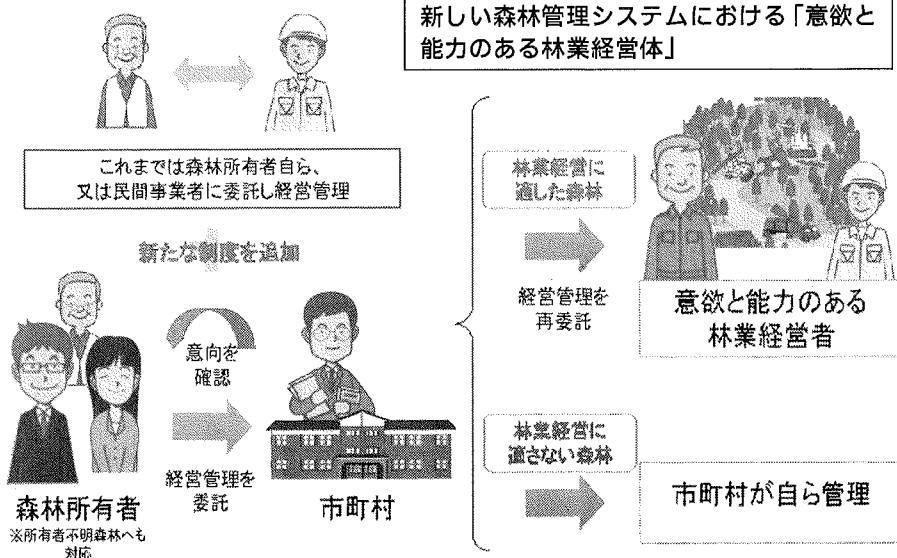
月以降、募集を開始する予定であり、決まり次第、広くお知らせしたいとしている。

【「意欲と能力のある林業経営体」とは】

本紙第167号で概要をお伝えしたとおり、本システムは、森林所有者が自ら経営管理できない場合、市町村が所有者から経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林について「意欲と能力のある林業経営体」に再委託するというものである。これら「経営体」は、高い生産性・収益性を有し、主伐

後の再造林を適切に行うなど、生産活動の継続性を有する者であることが求められている。

新しい森林管理システムにおける「意欲と能力のある林業経営体」



(イラスト出典：林野庁ホームページ)

一方、国は、木材生産を通じた持続的な林業経営を確立するため、これら「経営体」育成のために総合的な支援を行うこととしている。具体的には、「経営体」が経営管理を集積することが見込まれる地域において、路網整備や高性能林業機械の導入等を推進するほか、川上対策として、国有林立木の長期・大ロットでの伐採・販売を可能にする法整備にも目下取り組んでいる。

つまり、この「経営体」として認定されると、業務受託の機会が増大すると見込まれると同時に、国の補助事業等、育成支援策の対象とされることになる。また、社会的信用力の向上にもつながるといえる。

### 【「経営体」の審査・登録の要件】

平成30年度末までの移行措置として登録された『意欲と能力のある林業経営体』へと育成を図る林業経営体」等に対しては県から直接、募集通知が出されたが、これに漏れた組合員には当組合から募集案内を連絡し、多くの組合員に積極的に登録申請を検討いただくよう呼びかけた。

県では、登録申請を受け付けた後、申請書類と経理関係資料や後に解説する「行動規範」等の添付書類をもとに、基準に合致するかどうかの審査が行われる。なお審査の過程では、関係市町村長と東北森林管理局長の意見も聴取されることになっている。

様式の記載項目は、事業体(者)の名称、所在地、代表者氏名等の基本情報と、雇用管理体制(社会・労働保険加入状況等)、技術者・技能者の人数、林業機械の保有状況、素材生産・造林の事業量(主伐・間伐の面積と材積、造林・保育の面積)等事業規模に関する事項を

記載するほか、新しい森林管理システムにおいて必要とされる、次のような取組みの状況が問われている。

- ・施業集約化に対する取組み
- ・生産量の増加または生産性の向上に関する目標
- ・生産管理または流通合理化
- ・主伐後の再造林の確保
- ・伐採・造林に関する行動規範の策定

・雇用管理の改善と労働安全対策  
・コンプライアンス(法令遵守)の確保

### 【主伐後の再造林の確保】

新しい森林管理システムでは、持続可能な林業経営に主眼を置いており、「経営体」審査の要件としても、①主伐および主伐後の再造林の一体的な実施体制をどのようにつくっているか、②森林所有者への働きかけにより、適切な更新に取り組んでいるかの2点が問われている。

素材生産と再造林の一体的な体制に関しては、素材生産者が自ら

造林を行わない場合でも、造林事業者あるいは森林組合と提携して、一体的な体制をつくることが考えられる。

また、森林所有者に対する働きかけに関しては、岩手県の場合は岩手県森林再生機構が林業・木材産業関係者等による民間の再造林助成に取り組んでおり、機構に対して協力を金を出している事業者は、自分が事業を行う森林の所有者に対して、当助成金を活用して再造林を勧めるよう働きかけを行うことができる。

なおこれらの要件に関しては、今現在体制が整っていないとしても、経過措置として、「1年以内に整備する」という選択肢が与えられている。

### 【行動規範の策定】

国内の森林資源の需要が急激に高まりつつある今、将来にわたる資源の持続的循環利用や環境保全など、林業・木材産業事業者が負うべき責任は今までになく重くなっている。また事業体の内部にあつ

ては従業員の労働環境の向上と労働安全の徹底、さらにコンプライアンス(法令遵守)の確保が厳しく求められている。これら社会的責任を果たすためにとるべき行動を文書にまとめたものが「行動規範」である。

当組合では平成31年2月、「責任ある素材生産・流通事業者としての行動規範」を作成し、公表した。当組合員については、自社で行動規範を策定済みでない場合は、これを「所属する業界団体等による行動規範」として当審査申請時に提出できる。また別の団体に所属している場合は、その団体で策定している行動規範を使用することもできる。

### 【その他の要件】

事業体が法人の場合は常勤役員を設置することとされている。また経理関連では、経理状況が良好であることと、経営管理の再委託を受ける森林に関わる経理をその他の経理と分離できることが求められている。

# トピックス

## 山火事防止を徹底 「忘れない 豊かな森と火の怖さ」

岩手県山火事防止対策推進協議会が1月30日、盛岡市で開催され、本年の山火事防止対策実施計画等について協議した。当組合からは竹田参与が出席した(高橋常務理事代理)。

本年の山火事防止運動全国統一標語「忘れない 豊かな森と火の怖さ」を通達し、各機関・団体の取組み計画を確認した。

平成30年の林野火災発生状況は、発生件数33件(前年44件)、面積57・24ha(前年423・58ha)と、いずれも前年と比べると減少。原因の上位は野焼き(40%)とたき火(15%)で、発生月は3～5月の3か月間で23件と全体の7割を占めている。

協議後の講演会では、岩手県の佐々木隆総合防災室長が講演し、「3～6月の発生時期に、原因の6～7割を占める枯れ草焼き、ゴミ焼却、野焼き、た

き火、火入れ等を抑制し、林野火災の発生を減らそう」との目標を示した。

組合員におかれては山林の防火活動に率先して取り組み、地域の山火事防止に努めるようお願いいたします。

## 資源エネルギー庁から 木質バイオマス証明の 注意喚起

平成29年に総務省が行った行政監査において不適切な事例が報告されたことを踏まえ、資源エネルギー庁は、

平成31年2月25日付で木質バイオマス発電事業者に対して注意喚起を行いました。

この中では、ガイドラインに基づく由来の証明により分別管理された木質バイオマスでなければ「間伐等由来」「一般木質」の調達価格を適用することはできないこと、発電事業者は、ガイドラインに基づき適切に分別管理された木質バイオマスを使用する責務があること、燃料区分が不適切であった場合は指導、改善命令の対象となり、FIT認定を取り消す可能性があること、が記されています。

当組合では「原木納入開始届」により事前に由来および根拠書類の確認を行っておりますが、改めて根拠書類の適切な整備と、「開始届」の納入前提出をお願いいたします。

また、ガイドラインにおいては伐採者が認定事業者であることが必要です。素材を入手する際は十分ご注意ください。

バイオマス材についてご不明な点がございましたら、経営企画課までご相談ください。

## 伐採・搬出・再造林ガイドライン・サミット in 鹿児島開催

2月6日鹿児島市内において、鹿児島県森林組合連合会と鹿児島県素材生産事業連絡協議会主催による「第2回伐採・搬出・再造林ガイドライン・サミット in 鹿児島」が開催された。同サミットは、木材需要の高まりと伐採適期の到来により主伐が進む一方、再造林が遅れている現状を素材生産事業体共通の課題とし、南九州で始まった自主的な事業改善運動を全国に普

及させることを目的として、平成29年9月宮崎県において第1回が開催された。

今回の第2回サミットには当組合鈴木理事長がパネラーとして出席し、当組合の概要とガイドライン制定、書類及び現地調査による合法性・バイオマス由来等の確認について発表した。

## 岩手県森林病害虫防除 対策会議に高橋常務理事出席

岩手県森林病害虫被害対策推進協議会が2月5日、盛岡市内において開催され、今回より委員に委嘱された当組合高橋常務理事が出席した。県内の松くい虫被害とナラ枯れ被害について、被害の現状が報告され、平成31年度被害対策等について協議が行われた。

## 株式会社花巻バイオマスエナジーが再エネ活用大賞を受賞

経済産業省東北経済産業局では平成22年より、再生可能エネルギーの利

活用に積極的に取り組み、低炭素社会の実現や地域活性化に貢献した企業や、省エネルギーの取組みにおいて優良な工場等を公募のうえ選考し、表彰している。

今年度の「東北再生可能エネルギー利活用大賞」最優秀賞には、(株)花巻バイオマスエナジー(森井敏夫代表取締役)が選ばれ、2月14日、宮城県仙台市において表彰式が行われた。同社は平成29年より花巻市内で木質バイオマス発電所を操業。県内の間伐材等のほか、松くい虫被害材を燃料用バイオマスとして活用し、電力を地元の小中学校へ供給していることが評価された。

### 全素協理事会に出席

全国素材生産業協同組合連合会(全素協)の理事会が2月21日、東京都港区で開催され、当組合から鈴木理事長、高橋常務理事が出席した。第45回通常総会提出案件などを協議したほか、林野庁の猪島康浩木材産業課長が出席され、平成31年度林野庁関係予算及び森林環境税等について説明があった。

### 林業機械化推進シンポジウムでの事例報告

林業機械化推進シンポジウムが2月8日、東京都渋谷区において「ICTで切り開く新たな林業」をテーマに開催された。

事例報告のうち、(有)杉産業の「ハーベスタによるバリューバッキング機能の活用」を紹介する。バリューバッキングとは最適採材のことであり、幹1本が最大の値段になるよう、また、需要者側ニーズにマッチするようコンピュータが自動的に長さを決めてくれる機能であり、フィンランド「ワラタ」社製のシステム。国内では日立建機日本(株)が取り扱っている。価格やオーダーのデータを予め入力しておき、操作は樹種、A/D材をボタン選択するのみ。ただ、作業時間や売り上げに効果が出るか等これからの実証が必要。

### 中部森林管理局一行が来訪

中部森林管理局(長野県長野市)の木村敏宏 資源活用課長ほか一行5名

が2月14日現地視察で当組合に來訪された。同局では、山元での委託販売(カラマツ)を検討しており、当組合が行っているインターネットを活用した入札販売方式(ウェブ入札)等について調査があった。鈴木理事長、小嶋課長が対応した。

### 鈴木理事長が林野庁の月イチ勉強会で講義

林野庁が月1回のペースで自主的に開催している勉強会(事務局企画課)から依頼があり、鈴木理事長が3月20日、「山元への利益還元に向けて」と題して、木材流通・販売について、林野庁職員及び民間企業の受講者80名に対して講義を行った。

### いわて林業アカデミーサポーターチーム会議に出席

2月22日、岩手県林業技術センターにおいて、いわて林業アカデミーサポーターチーム会議が開催され担当職員が出席した。

平成30年度の研修生18名全員が修

了見込みであり、県内への就業を内定していること、31年度の研修生は17名合格し、アカデミー初の女性1名が含まれていること、31年度は新たに就職説明会が5月と8月に実施されることなどの報告があった。

#### \*管内需要先情報\*

(有)川井林業零石工場は、3月1日より「24時間受入れ」をスタートしました。

カメラと帳簿を使った受入方法です。

詳しくは営業企画部まで。

#### \*管内需要先情報\*

経済産業省は先般、「地域未来牽引企業」(注)の追加選定を公表した。当組合に関係する選定企業は以下の各社。

(株)津軽バイオマスエナジー、(株)花巻バイオマスエナジー、(有)谷地林業、西北プライウッド(株)、秋田プライウッド(株)、(株)石川組、協和木材(株) ※順不同

(注)地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者に対して経済波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を積極的に展開、今後取り組むことが期待される企業。

## ちよつと気になる木の話

32

## ミズナラストーリー

## 「山崎」から「百年の孤独」まで

広葉樹は、時代のはやりすたりが激しく、今急上昇はトチノキ、急下落はケヤキといったところである。

これは、洋室向きの白系と和室向きの茶系が、和室の減少トレンドと連動していると考えられる。そのため、お盆や漆器に使われてきたトチノキをこうした業界は使いつらくなり、ミズメ、サクラやハンノキ等に需要がシフトし始めている。

さて、本題に入ろう。今も昔も人氣が変わらないのがミズナラである。

ミズナラの日本最大の宝庫は北海道である。北海道開拓にあたって、ミズナラは大量に伐採されることとなり、その品質の高さから、ヨーロッパを中心として輸出される。インチ材といわれ、小樽港から船積みされていく。その輸出業者が住んでいたお屋敷付近を「外国人坂」と呼ぶと以前書いたところである。

このミズナラは、大評価を受け、イギリス王室御用達で「ホツカイドーオーク」と呼ばれている。逆に、その「インチ材」向けの材料確保のため森林ごと買った名残が、三井物産の社有林である。北海道には三井物産の森林が多く、管理会社は以前、三井物産林業と呼ばれていた。

かつて私の聞いた話では、古くは、芦別付近のミズナラが色が良く高級品とされたが、その後着色等加工技術も進み留萌等日本海側のミズナラが品質が良く高値で売っていた。材質が柔らかく、加工のし易さが評価されていた。

一方、日高・帯広等の太平洋側のミズナラは堅く、加工しづらいので、ミズナラではあるがインチ材と呼ばれ、人氣が低かったという。やはり、日本海側は暖流が流れ込み、太平洋側は寒流が強かった影響だろうか。確かに海水浴場は、日本海側は羽幌まであり、太平洋側は皆無である。北限のスギ造林地も確か羽幌付近の

新宮商社の社有林だった記憶がある。

そこで、人氣のあまりなかったインチ材を使って、ウイスキーの仕込みが行われる（納入は、不確定ではあるが三井物産林業と聞く）。納入先のウイスキーメーカーは、ウイスキーを仕込んで、いったん飲んで味見をしたが、あまりおいしくなく、倉庫に置いたままだったという。倉庫を片付けようとして、大量のミズナラの樽は何だと思ひ、再び試飲したところ、大変な美味だった。これは最高級品として売れるとなり、その醸造工場の名前を付けたのが、サントリー「山崎」となる。なんと実話である。「山崎」を今後も継続生産するため、ミズナラの確保をサントリーから依頼されたときの記憶である。

なるほど、輸入オーク樽が多い中、「山崎」は国産ミズナラに拘ったのである。まあ、ウイスキー価格も高いしなあ。

ということで、今も国内のとある製材工場は供給を続けていると聞いている。

ウイスキーの色と聞けば、琥珀色であるが、ウイスキーと同じ色をし

た焼酎がある。「百年の孤独」である。これも人氣があり、なかなか入手できない。この樽は何なんだろうか？

これもミズナラ（オーク）である。岩手県にある某製材工場の息子さんと「百年の孤独」の娘さんが結婚をして、その縁で某製材工場の知り合いの岩手県の広葉樹製材工場が挽いて加工し、その後組み立てられて、仕込まれたと聞いている。世の縁とは不思議なものである。とすれば、ミズナラの樽を使えば日本酒も琥珀色になるかもしれない。色だけでなく日本酒の香りはスギ樽の香りであることは誰でも知っている。スギ樽仕込みでないところは、スギのチップで香りづけするとも噂に聞いた。

ミズナラは、このように家具、フローリング、内装材だけでなく、日本の代表的なウイスキー、焼酎にも欠かせないのである。こうした用材でなくても、きのこ用、燻製用、ピザ用薪としても木の先端まで有用である。まさに有用広葉樹の鏡である。

ちよつと有用広葉樹の表現は古いかも…。でも雑木の呼び名よりは良い。雑木という樹種はない!!

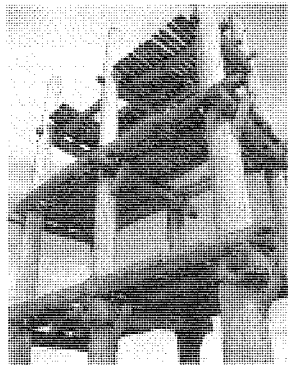
# 森林・林業 おでかけ！レポート (青森県青森市)

## 国特別史跡 三内丸山遺跡

所在 青森県青森市大字三内丸山

電話 017-781-6078

三内丸山(さんないまるやま)遺跡は、約5500〜4000前の、我が国最大級の縄文集落跡だ。その存在は、江戸時代からすでに知られていた。



三内丸山のシンボル大型掘立柱建物

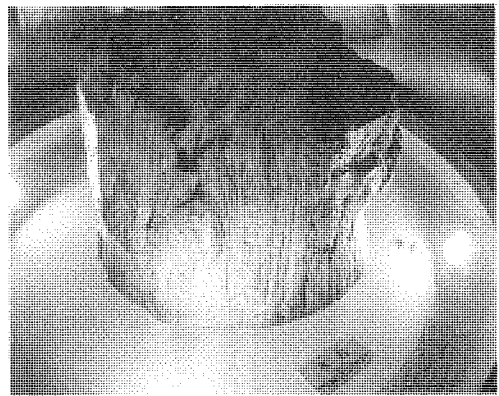
昭和時代に数回の学術調査が行われたが、平成4年、野球場建設工事にもなう発掘調査で、前例のない巨大な集落跡であることが判明。さらに同6年、直径約1mのクリの巨木を用いた建物(「大型掘立柱建物」写真・復元)の柱跡が見つかったことがきっかけとなり、遺跡の永久保存と活用が決定された。平成12年、国の特別史跡指定。

発掘された柱跡は、間隔4.2m、方形

に並んだ直径約2m、深さ約2mの6つの穴で、屋根をかけた保存施設の中で見学することができる。発見当時、その中にクリの柱の根元が腐朽せずに残っていた(現在穴の中に置かれている材はレプリカ)。

穴の大きさと傾き、穴の底にかかっていた圧力等の推定から、高さ14.7mの6本柱の高床式建物を想定し、ロシア産の通直なヨーロッパグリを用いて復元施工したのが、現在見られるやぐら状の建物だ。だが、これに屋根が掛かっていたかどうか、そもそも、「建物」であったのかどうか、専門家の間でも当時議論が分かれたという。建物の用途も、灯台(当時は海岸線が近かった)、物見やぐら、あるいは祭祀用か、など未だ謎のまま。

クリの柱材は他の建物跡からも見つかっており、その実物が園内の「さんまるミュージアム」に展示されている。柱の底部には磨製石斧で加工されたと思われるこの跡がある。また不朽性を高めるために、表面を焼き焦がす工夫が施されていたことも分かる。



遺跡の柱穴から取り出されたクリ材の実物

この遺跡の調査が世の中に与えたインパクトはこれだけではない。出土した種子のDNA検査の結果、当時すでに植物の栽培が行われていたことが判明したのだ。この集落ではヒョウタンやマメなどのほか、クリが植栽され、食料や建材として利用されていたことが分かった。これにより、「狩猟・採集生活」と言われていた縄文時代の暮らしのイメージが、文字通り一変した。

クリを植え、実を採り、木を伐り、建物や道具をつくる。まさしく、林業・林産業の「黎明」がここにあったと言えるのではないだろうか。

三内丸山遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を目指す

NEWS! 特別史跡三内丸山遺跡は平成31年4月6日(土)より

### 「三内丸山遺跡センター」としてオープンします

\*リニューアル準備のため3月18日(月)~4月5日(金)は全館休館となりますのでご注意ください。

アクセス: JR新青森駅からシャトルバス「ねぶたん号」15分(200円)  
またはJR青森駅から市営バス30分(310円)

常設展観覧料(遺跡含む): 3月17日まで無料。

リニューアル後は一般410円、高校生・大学生200円、中学生以下無料。  
リニューアル後は年末年始のほか、毎月第4月曜が休館日となります。  
(祝日の場合はその翌日)

そうということで、昨年度は推薦からもれたが、平成31年度、改めて推薦候補とする方針が決まった。これには本誌153号で紹介した御所野遺跡(右手県一戸町)も含まれている。  
日本の文明の黎明が北日本に存在したことは、感慨深いものがある。

平成 31 年 2 月 分 の 販 売 実 績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	11,121	108.2	72.7	7,980	118.6	110.6	19,102	112.3	84.8
カラマツ	4,324	108.0	130.0	77	46.8	22.1	4,402	105.6	119.8
アカマツ	2,988	121.8	84.4	2,260	135.1	*	5,248	127.2	148.3
その他	0	*	*	582	171.6	1,105.1	582	171.6	1,105.1
合計	18,434	110.1	83.2	10,899	122.4	143.1	29,333	114.4	98.5

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,103	99.0	88.7
カラマツ	1,756	105.3	189.3
アカマツ	2,434	85.4	74.1
その他	0	*	*
合計	8,293	95.7	93.9

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m <sup>3</sup> )	製材・集成材・その他用 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	燃料用 (t)
スギ	118,435	124,653	243,087	75,687
カラマツ	42,737	2,181	44,919	19,680
アカマツ	29,969	5,329	35,298	17,245
その他	111	4,008	4,119	117
合計	191,252	136,171	327,423	112,728
目標達成率 (%)	91.1	93.9	92.2	90.2
計画量	210,000	145,000	355,000	125,000

注) \*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成 31 年 2 月の需給動向】

- 合板用のカラマツの引き合いが強まり価格が高騰。この引き合いは当面続く。
- 集成材用のスギが不足しており、遠方からの調達も含め、対策を検討している。
- 例年より雪解けが早く、積雪を利用しての素材搬出に苦労しており、出材に難航。

耳からウロコ

意外な林業関係者

「あつと驚く、ためごろうっ」

昭和の庶民の大好きなものの代名詞は、「巨人、大鵬、卵焼き」である。大鵬って誰かは、昭和時代の人は、国民100%知っている。

その大鵬は、林業関係者である。大鵬は、昭和15年生まれで南樺太に生まれ、最後の引き揚げ船小笠原丸で稚内へ。小笠原丸は、その後すぐ留萌沖で沈んでいる。間一髪である。その後、母子家庭でいろいろあり、弟子屈川湯温泉へ住み、中学卒業後定時制高校に通うこととなる。

定時制はもちろん昼ではないので、この時の昼の仕事が弟子屈営林署に勤めていたのである。この時、相撲巡業があり、見込まれて中退して上京したため、林業関係はここで終わりとなる。大鵬はハーフではあるが、南樺太出身で日本人力士となっている。

次に、画家の熊谷守一である。父は実業家で、岐阜市長、衆議院議員も務めたが、本人は、東京美術大学(現東京芸術大学)西洋画科に進む。指導を受けたの

は、黒田清輝、藤島武二で、同期には、有名な青木繁がいる。しかし、才能が見出されず、故郷岐阜県付知に帰ることとなる。そこで従事したのが林業である。

「ヒヨウ」と呼ばれた木材運搬に従事することとなる。付知といえは、裏木曾の中心地で、木曾ヒノキのメッカである。現在、美術館は、豊島区と付知にあるが、掲示してある履歴をみれば、林業に従事していたことが確認できる。戦後すぐの昭和の時代は、地方の主要産業は林業だったことが推測できる。

古い昔はどうだったのだろうか？我々の時代の小学校には、二宮金次郎の碑が建っていたところが多い。銅像は必ず、背中に薪の背負子を背負い、本を読んでいる姿である。今なら歩きスマホかもしれない。勤勉努力の証であるが、薪が家の仕事だとわかる。また、足柄山の金太郎もマサカリを持っている。これも薪割り用である。

桃太郎も川で流れた桃をおばさんが割るが、じいさんは芝刈りである。かぐや姫は竹を割って出てくる。

これが意外な林業関係者、とはちよつと...であるが、日本は古くから山と生きてきたことは、間違いない。